

# 新谷奈津子教授 特別講演会

宮城教育大学附属・小学校英語教育研究センター  
センター長 板垣信哉

ニュージーランドのオークランド大学上級講師、新谷奈津子氏による下記の講演を一般に公開いたします。当日は「インプットタスクを小学校英語に活用する」というタイトルで講演会が行われます。（講演会の内容の詳細は裏面をご覧ください）

日時：5月18日（月）18:00～20:00

会場：宮城教育大学7号館730教室

対象者：小・中・高等学校及び大学の英語教育に関心をお持ちの方

参加費：無料

参加お申込方法及びお問合せ先：

お名前、ご所属、お電話番号（差し支えなければ携帯番号）、E-mailアドレスをご記入いただき、下記のメールアドレスにご返信いただくか、FAXでお申込み下さい。

宮城教育大学附属・小学校英語教育研究センター

戸塚 真愛

TEL/FAX: 022-214-3493

E-mail: m-tozuka@staff.miyakyo-u.ac.jp

申込締め切り：5月12日（火）

演題：「インプットタスクを小学校英語に活用する」

講演内容：

「タスク」とは、教室の中で学習者が、外国語をつかってコミュニケーションをとる状況をつくり、それによって英語を使ってコミュニケーションができる力をつけることを目的にした教授法です。ですから、英語を正確に書く・読む・聴く・話す能力は、コミュニケーションの練習を通して少しずつ身につくものであるという考えが根本にあります。「タスク」と聞くと、既に英語を発話する能力が身についた学習者が、ペアワーク・グループワークの中で行うものと考えられがちですが、英語の知識がほとんどない児童でもインプットタスクをつかってコミュニケーションを体験させることができます。このセミナーでは、タスクを小学校英語に活用する方法として、インプットタスクを提唱し、従来の presentation-practice-production（学習項目を提示し、それを練習し、最終的にコミュニケーションを重視したアクティビティに発展させる）とどう違うのか、どのようなメリットがあるのかを、考えてみたいと思います。セミナー前半は、タスクの基本的な定義とどのような効果が期待できるのか第二言語習得理論の観点から検証します。後半は、グループに分かれて、インプットタスクと、それを発展させたアウトプットタスクを実際にデザインし、それを全体で共有しながら、「タスク」を小学校英語に活用する問題点、疑問点をみなさんと考えていきたいと思っています。

略歴：新谷氏は、10年以上日本で英語を教えた経験をもとに、インプットタスクの英語習得における有効性でオークランド大学から博士号を授与され、シンガポールの南洋理工大学で助教ののち、現職。新谷氏の研究は第二言語習得におけるインタラクションの役割やタスク中心の教授法等で、『Language Learning』、『Studies in Second Language Acquisition』、『Applied Linguistics』など一流の国際雑誌に出版されている。著書に『Exploring Language Pedagogy Through Second Language Acquisition Research』（Routledge、2014年）等があり、現在『The role of input-based tasks in foreign language instruction for young learners』（John Benjamins）を執筆中。TESOL Quarterly の編集委員も務める。